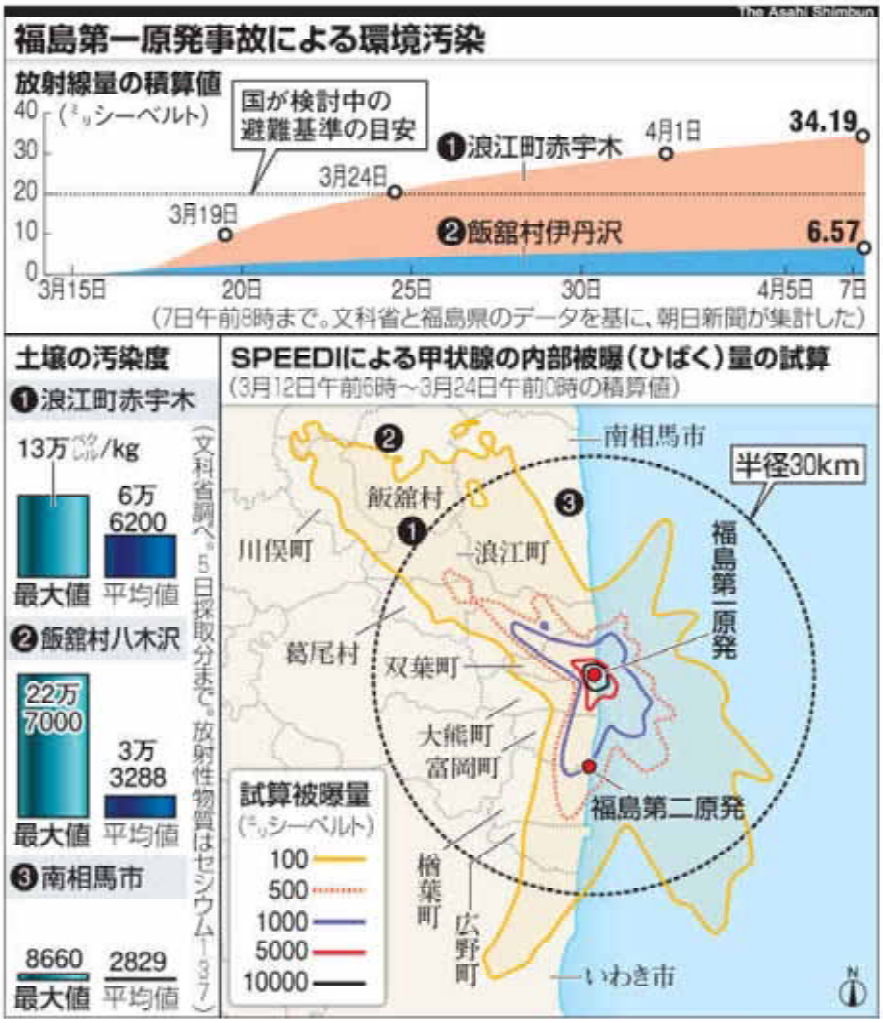
民間の会社でもなければ、残るは周辺の市町村の職員がパトロールしていたのかも知れない，未だ謎のままだ。

この赤宇木地区に居た皆さんは、相当量の被曝があったモノと推定される。

赤宇木は浪江町から阿武隈山中に分け入る富岡街道があり、津島、川俣町、保原町と中通りへ抜ける街道であるから、山間へ避難すれば大丈夫だろと判断して避難地に選んだのでしょう， 更にこの地区は 20km の避難指定区域の外側で数 km 以上離れているからと安心して避難していたようですが、浪江町町内に居たよりも遙かに高い放射線量を浴びたことになってしまった。

更に遠い山間の飯館村の人々は全く関係ないと信じ込んでいたし､何の情報もなかった。そこへ汚染の調査にきた調査チームにより、高い汚染度が判り村は大騒ぎとなったが、その後しばらくしての 4 月 22 日避難計画的地区に指定されたが、その間避難を巡る話し合いが延々と行われ、その間危険だから即刻避難しろとの指令はどこからもなかった。

もし SPEEDI の放射能拡散予想図が,正確でなくとも危険であることは確かなので,即座に活用していたらもっと早く避難しただろうし、被曝量も少なくて済んだはずだ。



この図で判るように風は北西方、明らかに浪江町の赤宇木地区、その先の飯館村、川俣町方面が危険だということは SPEEDI の解析で 3 月 12 日朝には原子力委員会や保安院は